

〔症例概要〕

No.	患者		1 日投与量 投与期間	副作用	
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 80代	網膜静脈分枝 閉塞症に伴う 黄斑浮腫 (高血圧, 認 知症)	不明 1 日間	ノカルジア強膜炎およびその増悪 [左眼] 投与日 左眼の網膜静脈分枝閉塞症による黄斑浮腫に対し、本剤をテノン囊下投与した。 投与49日後 (発現日) 強膜炎が発現。抗菌薬点眼とベタメタゾンリン酸エステルナトリウム点眼を開始。 投与63日後 症状増悪。前房内炎症細胞が出現。レボフロキサシン水和物点眼とセフメノキシム点眼の頻回投与、レボフロキサシン水和物内服を追加。 投与70日後 左眼の眼痛・結膜充血、強膜壊死を伴う結節性病変、前房内炎症細胞、フィブリン析出が発現。プレドニゾロン内服、セフジニル内服を開始。 投与86日後 充血改善、結節性病変縮小。セフジニル内服終了。フルオロメトロン点眼追加し、プレドニゾロン内服漸減。 投与100日後 耳側の強膜菲薄化、ぶどう膜が透見された。抗菌薬はレボフロキサシン水和物点眼のみとした。 投与142日後 左眼周囲発赤、腫脹発現。プレドニゾロン内服増量、フルオロメトロン点眼をベタメタゾンリン酸エステルナトリウム点眼に変更、モキシフロキサシン塩酸塩点眼開始、セフジニル内服を再開。 投与146日後 左眼腫脹、発赤、眼球運動痛、充血増悪。左眼耳側に眼窩膿瘍発現。 投与149日後 入院。セファゾリンナトリウム水和物点滴開始。 投与150日後 結節性病変自壊し排膿した。左眼腫脹、結膜充血は改善傾向。モキシフロキサシン塩酸塩点眼をレボフロキサシン水和物点眼に変更、プレドニゾロン内服漸減。ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム点眼をベタメタゾンリン酸エステルナトリウム・フラジオマイシン硫酸塩点眼に変更。 投与155日後 眼窩膿瘍は縮小。<i>Nocardia elegans</i>検出、スルファメトキサゾール・トリメトプリム内服開始。 投与167日後 退院。 投与190日後 眼窩膿瘍は痕跡程度に縮小。	
臨床検査値					
検査項目				投与70日後	投与190日後
視力 右 (矯正視力)				0.1 (1.0)	(0.9)
視力 左 (矯正視力)				0.03 (0.06)	(0.2)
併用薬：不明					

〔症例概要〕

No.	患者		1 日投与量 投与期間	副作用	
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	男 60代	網膜静脈分枝 閉塞症に伴う 黄斑浮腫 (霧視, 結膜 浮腫, 眼圧上 昇)	20mg 1 日間	真菌性強膜炎	
				投与日	網膜静脈分枝閉塞症による黄斑浮腫に対し, 本剤を左眼下鼻側テノン嚢下投与した。
				投与40日後	眼圧上昇を認め, ドルゾラミド点眼を開始。
				投与78日後	左眼の疼痛, 充血発現。ドルゾラミド点眼を中止。
				投与84日後	充血及び疼痛改善なく結膜浮腫出現。
				投与84日後 (発現日)	
				投与90日後	前房炎症細胞, 虹彩後癒着, 下鼻側の結膜下に黄色病変, 後部テノン嚢内に膿瘍を疑う病変を確認。ジベカシン硫酸塩結膜下注射, セフポドキシムプロキセチル内服を開始するも改善せず。
				日付不明	ミコナゾール点眼, ポリコナゾール内服, ピマリシン眼軟膏を開始。
				日付不明	結膜下黄色病変検体からScedosporium検出した。
				投与101日後	広範囲な漿液性網膜剥離を確認し, 膿瘍の範囲拡大。
				投与102日後	外科的デブリードマン実施するも膿瘍を郭清することは困難であった。
				投与109日後	フルコナゾール点滴, ミコナゾールテノン嚢下注射を開始, ミコナゾールテノン嚢下注射は, 週 2 回の頻度で計 9 回投与した。眼球下縁膿瘍及び眼炎症性変化縮小, 前部テノン嚢下膿瘍や強膜充血は徐々に改善傾向であった。
				投与300日後	膿瘍形成部位は癒痕化し, 漿液性網膜剥離は消失。
				臨床検査値	
				検査項目	投与日
				投与40日後	投与84日後
				投与300日後	投与496日後
				視力 左 (矯正視力)	(1.0)
				(0.9)	(0.2)
				10cm指数弁	手動弁
				併用薬: クロルヘキシジングルコン酸塩, ポリビニルアルコールヨウ素, ガチフロキサシン水和物点眼, オフロキサシン眼軟膏	